

グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088 - 821 - 2000 四国山の日

FAX 088 - 821 - 4834

ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1060 2008年7月号



下層に広葉樹が生育するヒノキ人工林



建築学科在籍学生による間伐体験（H19年度の森林環境教育）

四国森林管理局における「美しい森林づくり推進国民運動」への平成二〇年度の対応に当たっては、民有林・国有林を通じて間伐等森林整備が進むよう取り組むことはもとより、森林・林業に対する国民の皆さんの理解が醸成されるよう国民運動の普及・PRに取り組んでいくこととしています。
(二項へ関連記事)

四国の「美しい森林づくり推進国民運動」の普及・PRの取組



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

四国の「美しい森林づくり」推進国民運動の普及・PRの取組

〈企画調整室・指導普及課〉

四国の「美しい森林づくり推進国民運動」の普及・PRの取組について紹介します。

美しい森林づくりを進めていくためには、森林整備や木材利用の重要性について、国民の皆さんに理解していただくことが必要です。

このため、多様な森林づくりや地域材利用を軸とした森林・林業・木材産業の再生に向けた取組について広く紹介する普及啓発活動等を、民有林の関係者やNPO等の方々と連携して実施することとしています。



H19年度の「みんなで森林づくり」の様子

一 四国山の日イベント
四国四県の豊かな生活環境や森林の多面的機能の高度発揮の実現に向けて、平成一六年一月に四国四県と四国森林管理局とでなされた「四国の森づくり」に関する共同宣言に基づき、取組を具体化していくため、平成二〇年度は、十一月一日・二日に高知県香美市の甫喜ヶ峰森林公園等において、地域住民の方や子ども達など多様な主体の参加を得て、①「多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進」に係る間伐体験や林業地の見学、②「木材の利用推進」に係る地域材利用施設の見学会、③「森林環境教育活動の推進」に係る森林教室やネイチャーゲーム等の内容を計画しています。

二 美しい森林づくりに関するシンポジウム(仮称)、地域材利用促進のためのシンポジウム及び地域材発見ツアー
平成二〇年度の新たな取組として、民有林関係者や一般市民の方を対象に、「美しい森林づくりを指して」をテーマとして、森林・林業の現状や美しい森林づくりについての取組・期待等について討論するシンポジウムを平成二〇年九月に計画しています。

また、消費者や林業・木材産業関係者を対象に、地域材利用を促進するための消費者ニーズの把握と木材利用の重要性等を情報発信するシンポジウムを平成二二年



H19年度の地域材発見ツアー

の建築を希望している方や木造住宅に関心のある方を対象に、地域材を使った施設(林道・治山施設及び木造住宅)に直接ふれあうツアーを平成二〇年一〇月に計画しています。

三 四国の森林づくり子どもサミット

「四国の森づくりに関する共同宣言」の取組の一環として、平成一八年度から、四国の森づくり活動(多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進、木材の利用推進及び森林環境教育活動の推進)を積極的に推進している学校、団体等を「四国山の日賞」として選定しています。

こうした取組みを発展させる形として、平成二〇年度においては、新たに「四国山の日賞」の「森林環境教育活動の推進」の分野で受賞した学校等を主体として、各学校等が取り組んでいる活動報告、実践活動や森林環境教育の推進に向けた意見交換、子どもから見た四国の森林づくりへの提言を行う

二月に計画するとともに、平成一九年度に引き続き、地域材を利用した木造住宅

子どもサミットを平成二〇年八月二六・二七日に計画しています。

四 建築学科在籍の学生のための森林環境教育

平成一九年度に引き続き、将来、地域材利用の推進役、消費者への情報発信役を担う建築学科に在籍している学生等を対象に、木造住宅設計、木材の特性等について学ぶとともに、地域材を利用した木造住宅の見学、国有林での間伐体験、木材搬出現場の見学等を行う森林環境教育を平成二〇年八月に計画しています。

技術開発課題に熱い意見

第一回技術開発委員会開催
〈指導普及課〉

六月六日、局において、今年度一回目の技術開発委員会を開催しました。

技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家等の外部委員から、平成一九年度に実施した技術開発調査の結果及びそれらを踏まえた今後の進め方等についての意見を聴く委員会です。

当日は、「皆伐跡地における針広混交林化への更新技術の開発」をはじめ一〇課題について審議

を行い、委員から専門的見地による貴重な意見等を頂きました。なお、委員会での意見は、技術開発課題の取組に活かしていくこととしています。

『森と水とエネルギー』

(親子で体験・学習)
〈指導普及課〉

六月一四日、四国電力株式会社高知支店及びオイスカ高知支局との共催により「ふれあい親子体験ツアー」を開催しました。

これは、六月の環境月間に合わせて、小学生と保護者を対象に「森と水とエネルギー」をテーマに、森林の役割やエネルギーについての理解を深める目的で行っているもので、今回で二回目を迎えます。

当日は、一般公募の二〇組の親子が参加しました。

本川プラチナセンターでの木工教室では、森林の働きなどを学び、その後ヒノキの円盤に、この日に植栽したクスギなどの葉を描いた「オリジナル樹名板」を作成をしました。

その後、いの町桑瀬の道の駅「木の香」の河原に移動し、アメゴを放流しました。子どもたちは、稚魚の放流が初体験とあって大歓声を上げていました。

いの町脇の山にある本川発電所では、発電所の仕組みや役割



親子で植樹を体験

今回のイベントでは、これらの体験を通して、「森と水とエネルギー」への理解も更に高まったのではないかと思います。
今後とも、環境月間に合わせて継続的に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、嶺北森林管理署管内の松枝山国有林において、クスギなど八〇本を植樹し、その脇には、木工教室で作成した真新しい「オリジナル樹名板」を立てました。
参加者からは、「初めて木を植えました。あの木が大きく育ってくれたらとても未来があつて楽しいと思います。」また、「自分たちで樹名板を作つて植樹を行う、良い一日になりました。」などの感想が聞かれ、親子での共同作業で楽しく過ごせたようです。

職員定期表彰式

〈総務課〉



永年勤続表彰受賞者

○一級精勤章（三八名）

局長	中山 尊裕
計画部	川上 利次
総務部	佐賀 賢二
森林整備部	山崎 忠男
治山課	真鍋 宏二
技術センター	徳満 千秋
香川所	佐竹 正光
	高井 雄司
	佐々木 一夫
愛媛署	森 陽治
	山本 基
	奥村 剛
	喜多 芳樹
	曾我部 稔
	松崎 哲也
	泥谷 教夫
	山平 久修
	小原 英基
	池田 誠雄
	伊賀 守
	坂本 久男
	矢間 重清
	山本 均
	竹内 一喜
	武田 昌運
	山中 俊一
	横山 義伸
	山中 勇
	野々原 幹男
	溝淵 春行
	和泉 由喜
	佃 悦幸

○二級精勤章（七名）

職員厚生課（共済）	飯田 富男
	横山 安市
	手嶋 隆
	西尾 則好
	川村 なぎさ
	吉川 直美
計画部	瀬崎 清武
総務課	澤村 美穂子
技術センター	梶原 浩二
愛媛署	増田 一幸
四万十署	坂本 庄志
高知中部署	渡邊 憲治
安芸署	柴田 知秀

伐採する時の「ツル」って、なあに

〜森林ボランティア活動入門講座を開催〜
〈指導普及課〉

近年、国民の三人に二人はボランティア活動への参加意欲を持っているなど、国民の社会参加意識やボランティア活動への理解と環境問題への関心が高まりつつある中、局では、六月二二日、新たに森林ボランティア活動を志す方を対象とした「森林ボランティア活動入門講座」（延べ三日間の一日目）を研修室で開催しました。
講座には、高知県内から女性を含めて、二名の参加がありました。当日は、局職員から森林・林業分野の基礎知識等として、「森

林・林業・木材産業を取り巻く現状」、「森林ボランティア活動のすすめ」及び「安全対策（造林、伐採）について」の講義を、また、こうち山の日ボランティアネットワーク事務局長 永野俊彦氏から「森林ボランティア活動の実践例」についての講義を行いました。
受講者は、聞き慣れない林業用語が紹介される中で、各講座とも熱心にメモをとり、また、伐採する時の受け口、追い口のつくり方、ツルの残し方などについて積極的に質問していました。

この講座は、今後、九月に林業機械・器具の取扱いと間伐木の選定についての実習を行い、最終回の十一月には、木材利用、植物及び初期の救急法について学び終了します。

講座終了後は、それぞれの地域等において、森林ボランティアとしての活躍を期待しています。
〔注〕ツルとは、木が倒れていく

ときの支点となり、その方向を定める働きをします。



シニーズ®
地域の声

共生する森づくりへ

えひめ千年の森をつくる会

会長 鶴見 武道
事務局長 鶴見 恵子



○会の目的

私たちは千葉県で千年の森をつくる活動を開始し、平成一二年に愛媛県に転居したのをきっかけにして、この地で会を発足させました。

森林が更新を繰り返しながら千年の後まで森林であり続けるような森林を育み、持続可能な社会の実現をめざすことを目的としています。活動の柱は、

- ① 森づくり
- ② 世界に開かれた木炭学校
- ③ いのちがめぐる自然農法実践農場
- ④ 安全な食、農林産物の加工が

学べる場

- ⑤ ありのままの自分に出会う場
- ⑥ 未来循環型自給をめざした生活の提案

の六つで、毎月一回の森の活動、年間八回の自然体験教室、毎週一回の棚田の保全活動を継続して行っています。

その他に環境に関する講演会や、千年の森の植樹祭、森の学習会、木質バイオマス利用のためのイベント、炭焼きなどを行っています。

○会の活動状況



森づくりを進める会員の皆さん



植樹活動

活動エリアは、東温市井内の棚田、スギ・ヒノキ林、竹林、クヌギ林と、西条市丹原町千原・千原千年の森、東温市河之内・川内千年の森で、下刈り、枝打ち、間伐、地こしらえ、植樹を実施しています。平成一五年からは毎年約千本の広葉樹を植え、地域の水源を守り、動物・植物と人が共生する広葉樹の森づくりを進めています。

自然体験教室では、自然農法による米づくりや、森での枝打ち・間伐を継続して体験することによって、子どもたちが逞しく成長し、環境意識が高まっていくことを実感しています。先生や保護者、地域住民がそれぞれに主体的に関わる活動の場と

なっています。

平成一八年からは、地球温暖化防止のために二酸化炭素の排出量の削減をめざして、森から運び出した未利用材をベレット化して燃料として使うイベントを行い、合わせて高校生のボランティアが会場を訪れた方に環境クイズを行い、森林や環境への意識啓発活動に取り組んでいます。

また、森づくりでは、安全に作業を進める上で、専門的な知識や技能が必要になってきました。平成一八年には、他団体と協力して「えひめ森づくり安全技術・技能地域推進協議会」を設立し、チェーンソーによる伐木造材に関する密度の濃い、実質的に安全を確保できる技術・技能の研修を行っています。

昨年は、日本で初めての審査会を実施し、ランク三の技能者を五名養成しました。これが広がり、各所で安全に森林ボランティア活動を進めていけるようになることを願っています。

「えひめ千年の森をつくる会」は、平成一九年度「四国山の日賞」（森林整備部門）を受賞されました。

各地の
たより

森林環境教育活動を推進

（高知中部署）



○「高知県立香北青少年の家」での森林教室等

当署では、香北青少年の家で開催される森林教室、木工クラブ教室などに、職員を講師として随時派遣しています。

【五月九日は、土佐市立新居小学校の五年生一〇名、五月二六日は、仁淀川町立池川小学校五年生八名が対象】

森林教室では、一人一人が真剣な眼差しで話に聞き入り、また、質問時間では即座にほぼ全員の手が拳がるなど、活気あるものとなりました。



「カタツムリ作成中」

木工クラブ教室では、木の枝などを自然の形を生かしたカタ

ツムリやクマの置物を作成しました。子供たちは各自工夫を凝らし、創造性豊かで個性的な作品の仕上がり満足していたようです。

プログラムは一時間半という短い時間でしたが、最後にそれぞれが作った作品を手に笑顔で記念写真を撮りました。

【五月三〇日には、春野町立西小学校の五年生四五名が対象】

最初に森林が水源かん養や地球温暖化防止に果たす役割などを勉強した後、森林が有している機能などに関するフォレストクイズを行いました。これには生徒だけでなく、先生方からも手が挙がるなどおおいに盛り上がりしました。

【六月三日は、高知市立旭小学校の五年生九三名が対象】



「初めて使うノコギリ」

木工クラフトでトでは、ノコギリやカッターを使ってカッター

ムリを作成し、初めてのノコギリ使いに苦労していた子供も多かったです。その甲斐あつてか、納得のいく作品が出来たようでした。

○大宮小学校で実験を交えた森林教室

五月二二日、香美市立大宮小学校の五年生三七名を対象に、森林教室を行いました。

今回は、森林の働きを説明するために、教室にトタンや土・草・落葉・木の枝などを持ち込み「森林」と「裸地」状態とを再現しました。ジョウロで雨を降らして、「水がどのように流れるのか、森林が土砂の流失や崩壊をいかに防いでいるのか」について実験しました。

さらに、水槽に森林の土壌の断面を作り、土の中の様子を観察してもらいました。

次に、壁板にヒノキの小枝をさして並べ、間伐が必要な森のモデルを作り、間伐を行うことにより森がどのように変化するか説明し、健全な森林づくりには間伐が大切であることを知ってもらいました。



森林の働きを実験で説明

子ども達は森林の働きに大変興味を示し、「森林についてこれからも勉強していきたい」という感想を書いてくれました。

香美市は、全面積の八七％を森林が占めています。この森林教室が子ども達にとつて、身の回りにある森林の働きをさらに学んでいくための良いきっかけになることを願っています。

今後、このような森林教室等を通じて、子供たちに森林について興味を持ってもらい、気軽に学習できる機会を提供していきたいと考えています。

三嶺の森をシカの食害から守ろう(第四弾)

〈高知中部署〉

五月一七日、当署や三嶺の森をまもるみんなの会、高知県及び物部川流域三市(香美市、香南市、南国市)からの呼びかけによりボランティア等総勢八三名が集まり、物部川源流の三嶺の森をニホンシカの食害から守るため、獣害防止ネットを設置する作業を行いました。

昨年秋から通算で四回目となる今回は、県境付近のカヤハゲ地区に防護柵を二箇所、さおり方原から三嶺山頂へ登る歩道沿いに防護柵を一箇所設置するとともに、単



ボランティアによる防護柵の設置

木保護のための網目状のプラスチック巻きも行いました。

今回の防護柵設置箇所は、資材の運搬に、片道二時間余りかかる場所があり、三嶺山頂に何回も登っている強者たちもさすがに大変だったようです。

登山道沿いのモミの木は既に何本もが根元部分にシカの食害を受けています。参加された方々の苦勞が実り、防護柵等によってキレンゲシヨウマなどの希少植物、ササなどの植生回復と多くのモミの木がシカの食害に耐えて生き残ることを願っています。

一ノ谷山国有林「遊々の森」でトチノキ等の広葉樹を植樹

〈嶺北署〉

五月三〇日、嶺北署管内の一ノ谷山国有林内「遊々の森」において、土佐町立森小学校(六

年生)八名、土佐町立田井小学校(六年生)一九名、ふるさと森を育む会一三名、土佐町役場産業建設課六名、森林保護員三名、署員一三名、総勢六二名の参加のもと、トチノキとケヤキ各一五〇本、ブナ一三〇本の計四三〇本の植樹を行いました。



記念標柱の前で記念撮影

植樹を始めるまでは雨が降るあいにくの天気でしたが、植樹を始めるともなく雨がやみ、行事も予定どおりに進んでいきました。児童達は慣れない作業に四苦八苦しながらも、育む会会員や署員に聞きながら、ていねいに苗木に土をかぶせていました。中には要領よく何本も植えている子もいて、笑い声の絶えないうちに植え付けも終わり、最後に各小学校の名前の入った記念標柱を設置し、その前で記念写真を撮り行事を終了しました。

帰りのバスの中では、「小学校の思い出が一つ増えて良かった。また何年かして自分達が植えた苗木を見に来たい。」という子もいて、将来への夢を込めた記念行事を手伝うことができた充実した一日でした。

「遊々の森(ゆめの森)」で 森林教室を開催 〜林内美化活動とネイチャーゲーム〜 〈四万十署〉

五月二三日、黒潮町立南郷小学校(校長・黒岩譲)と遊々の森協定を締結しました。

協定箇所は、同小学校から徒歩で約一・五kmに位置する入野東浜林国有林(通称・入野松原)の一部五・六haで、四万十署では四箇所目の遊々の森となります。

五月二六日には第一回目の森林教室を行い、一年生から三年生までの一九名と教員四名、当署から森林ふれあい係長等三名が講師として参加しました。

最初に、「松原の三大ピンチ」と題し、入野松原ができた経緯と主な歴史として、宝永四年、津波によって松原が甚大な被害を受けたが、地元住民の努力で復興したことや、太平洋戦争末期には軍用資材とするための伐採計画があり、当時の営林署長



「ターザンごっこも大好評」

が松原保護に尽力したこと、現在はマツクイムシ被害を防ぐための事業や補植活動に取り組んでいることを職員手作りの絵や写真を用いて紙芝居形式で説明すると、児童たちは積極的に質問をするなど、深く興味を持って学習していました。

その後、バケツと火バサミを持ち美化活動を行いました。短時間でゴミ袋二つの空き缶等が集まり、児童たちは環境を守る大切さと苦勞を感した様子でした。

その後行われた、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」では、森林ふれあい係長が動植物の擬態について説明し、早速二人一組でゲームに取り組んでもらいましたが、じっくり観察しながら、楽しそうに探していました。

閉講式後、林内で昼食をとり昼休みの遊び体験活動として、傾斜のある部分を活用しブランコを設置しました。すると、長い順番待ちが出来るほどの大人気となりました。

り、急遽準備のロープでターザンごっこもできるよう遊び場を追加しましたが、これも皆に好評で、帰校予定時間になっても止めようとせず、先生方を困らせるほど、自然の中の遊びを思いっきり楽しんでいました。

小雨の中で三嶺 清掃登山を実施 〈高知中部署〉

五月二五日、三嶺自然休養林において「三嶺を守る会」主催の第三回三嶺清掃登山が行われました。当日は前日からの小雨が残る中、当署職員八名を含む七団体五六名が九つのコースに分かれて、登山路などの清掃にあたりました。今回は合計約三〇キロのゴミが回収されました。

また、同時にニホンジカによる食害調査も行われ、当署が担当した調査区域では、約二五%の樹木が食害、角研ぎなど何らかの被害を受けていました。今後とも三嶺の山々の美しさを維持していくためには、利用する人たちのゴミ持ち帰りマナー



徹底と同時に、増え過ぎているシカへの対応が重要であると感ぜられました。

「どんな実がなるのかな？」 ―校庭の樹木を学習― 〈ふれあいセンター〉

愛媛県の松野町立松野西小学校は、例年、総合的な学習の時間を活用した森林環境学習に取り組んでいます。今年度も、四年生を対象に七回計画し、ふれあいセンターに支援の要請がありました。

第一回目は、「木を知ろう」をテーマに五月一九日に実施しました。導入では、シカによる森林被害やマツ再生の取組などふれあいセンターの仕事を紹介した後、葉っぱの各部分の名前や形、付き方を説明して樹木への関心を持たせました。

校庭では、約三〇種類の樹木について、用途や花の開花時期、木の実の違いなどについて写真も使いながら説明、児童は、学



「ワークシートに記入中」

習したことを熱心にワークシートへ書き込んでいきました。ふりかえりの時間では、「学校に実のなる木があることを初めて知った」「イチヨウは広葉樹ではなかった」「おとなしいと思っただシカが、悪いことをすると聞いてビクビクした」など次々に発表があり、樹木への関心はおおいに高まったようです。

行きは「わだわだ」 帰りは「ルンルン」 ―高校生が初めての山歩き― 〈ふれあいセンター〉

梅雨の晴れ間となった六月三日、四万十高校一年生二四名を対象に森林環境教育を実施しました。

今回は、七月に予定されている屋久島研修を控えて、体力養成や山歩きも体験させたいとの学校の意向を受けて、梶原町にある久保谷風景林をフィールドにしました。

途中、現地が遠望できる林道ではバスから下車し、地図の見方を説明するとともに、これから歩く山をイメージしてもらいました。

登山口の春分峠では、風景林の概要や山歩きの注意点を話し、早速歩き始めました。行きは、天然ヒノキやモミなどの巨木が続く比較的なだらかな登りのコースをとりました。たぐさんの落ち葉を踏みしめて歩くことから、「ギャー、すべる」「待って待って！」を連発してこわごわのスタートとなりましたが、樹木名の由来や用途などを説明する時は、熱心に聞き入っていました。標高八三二mの「杖立」では、久保谷風景林を管理する梶原森林事務所森林官から、この風景林の見所や山（森）歩きの魅力、樹木名の覚え方などを披露してもらいました。帰路は、アカガシが林立するコースを歩き、樹齢五〇〇年ともいわれている久保谷風景林のシンボルツリーの巨大アカガシで足を止め、改めてその大きさに驚いていました。その後、歩道沿いに咲くギンリョウソウも楽しみながら、徐々に山歩きに慣れた様子で足取りも軽く

下山しました。

最後に生徒代表から、「森林について、いろいろな学習ができました。また、屋久島では、今日の体験を生かしたいと思います」との感想があり、ふれあいセンターも学校の意向に沿えることができたようです。



「巨大アカガシにビックリ」

今月の主なイベント等の予定

- △一五日・二四日 西土佐中学校「森林教室」
(ふれあいセンター)
- △二四日 教育関係者のための森林環境教育支援講座 (局指導普及課)
- △二五日・二九日・三〇日 高知市内小学校を対象に森林・木工教室 (局指導普及課)
- △二六日 伊予之(二)名島土事(の)森づくり (愛媛署管内サル谷国有林)

シリーズ② 四国局の技術開発

『天然林におけるスギ更新技術の確立』

技術開発の主な取組について、平成二〇年度は(回)シリーズで紹介しており、今回はその第二弾です。

【目的】

高知県の県木として知られる「ヤナセスギ」が、ほぼ純林となつている千本山林木遺伝資源保存林では、現在後継樹となる更新木がほとんど生育していません。これまで様々な試験が行われてきましたが、スギの天然更新(自然に落ちた種子から発生した稚樹を育てる造林法)は困難なものとされてきました。

ここでは、ヤナセスギの天然更新による更新技術の確立と種子の直播き及び苗木の植付けによる更新の作業基準の確立を目指し、基礎データの収集に当たっています。

【試験地】

高知県安芸郡馬路村大戸山国有林(二〇二八は林小班、雁巻山国有林(二〇三二)は林小班)、和田山国有林(二〇九八)は林小班

【試験内容】

大戸山試験地では四〇%択伐地にスギ苗木を移植し(五〇〇本/ha)、成長調査等を実施しています。雁巻山試験地では、スギ種子

〈森林技術センター〉

を直播きし、稚樹成立本数調査等を実施しています。和田山試験地は、架線集材とヘリコプター集材によつてできたギャップ(林内に生じた空間)毎に、天然更新による稚樹成立本数調査、落葉、落枝の被覆状態のタイプ別(左写真)調査等を実施しています。



地肌が露出しているタイプ



地肌を覆っているタイプ

【試験結果(継続中)】

大戸山試験地では、植栽したスギは順調に生育しています。雁巻山試験地では、種子の直播きが多いプロットが発生も多くなり、直播きの効果が表れています。

和田山試験地では、比較的大きい面積の架線ギャップでも、

一辺が約四〇m(樹高程度)の大きさのヘリギャップでも稚樹成立本数が増加し、特にヘリギャップの稚樹の発生・生育状況は良好で、稚樹の増加率は架線ギャップに比べて、明らかに高い結果となつています。

架線ギャップよりも小さい面積のヘリギャップの方が、相対照度が稚樹の残存に好適と思われる、この違いがギャップ間の稚樹生存状況の違いをもたらし要因のひとつになったと考えられます。

また、被覆別タイプ試験では、全体として被覆による遮光率が高くなるほど、稚樹成立本数は少なくなる傾向がみられました。被覆の影響はギャップ面積の違いに応じて異なる結果となりました。このことから、ギャップ面積に応じて稚樹の好適な被覆状況の環境は違つてくると推測されます。



ヘリギャップ内の稚樹

(平成十九年度) 日本森林学会 西部支部 研究発表会等にて発表

第1回国有林モニターアンケートの結果概要

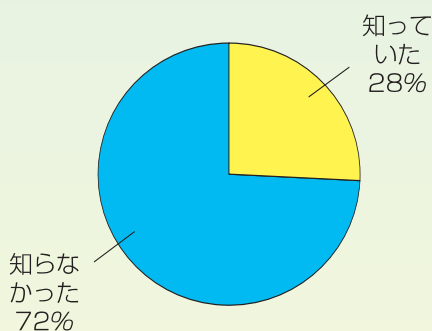
企画調整室

平成20年度国有林モニター実施計画に基づき、第1回国有林モニターアンケートを5月に実施しました。今回のテーマは、「広報活動について」です。四国森林管理局では、局・署等における様々な取組や活動状況などについて広く効果的に発信していくこととし、毎月の広報誌の発行や、ホームページを通じた広報活動等に努めているところです。今後の広報活動の参考とするため、国有林モニターの皆様にアンケートをお願いしました。アンケートの結果は、今後、四国森林管理局の取組を進めていく上での貴重なご意見として参考とさせていただきます。

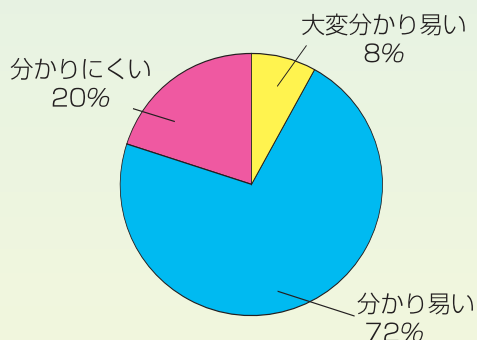
アンケートにご協力いただいたモニターの皆様、ありがとうございました。

I. 広報紙「グリーン四国」について

(問1) 国有林モニターになる以前から広報紙「グリーン四国」を知って(見たことがある)いましたか。



(問2) グリーン四国の文章や写真の使い方等の紙面構成についてどう思いますか。



(問3) 5月号グリーン四国の掲載記事の中で、特に印象に残った記事があればお答え下さい。

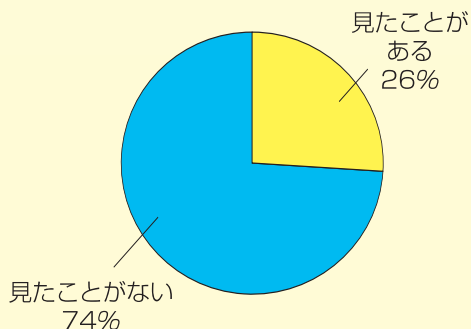
- 「かずら橋」掛け替え用資材の確保に向け協定を締結 (徳島署)
- 四国局の技術開発「立木密度の変化による林床植生等への影響調査 (森林技術センター)
- 地域の声「こにふあくらぶ活動について」 (特定非営利法人こにふあくらぶ)
- 「わくわくの森」で植樹と椎茸の植菌作業 (愛媛署)

(問4) グリーン四国の内容について、どのような情報が掲載されていると良いと思いますか。

- イベント紹介
- 地元活動紹介
- 国有林紹介
- 林業技術
- 森林と環境

II. 四国森林管理局ホームページについて

(問1) 四国森林管理局のホームページをこれまでご覧になったことがありますか。



(問2) ホームページをご覧になってみて、面白いと思った内容の上位3つをお答え下さい。

- 四国の貴重な植物
- 環境問題・自然保護
- 四国の森88
- 森林への招待状

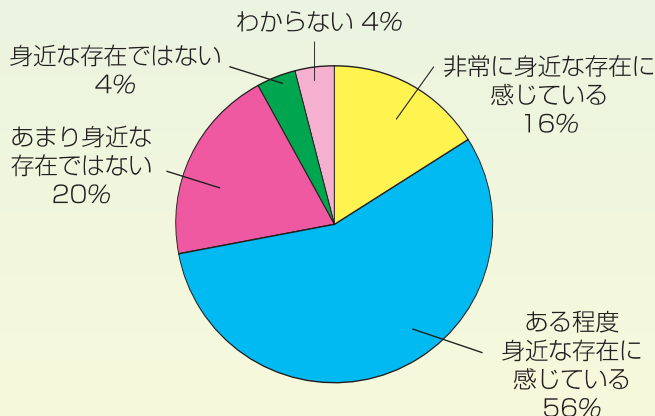
(問3) ホームページの内容について、どのような情報が掲載されていると良いと思いますか。

- イベント紹介
- 国有林紹介
- 植物情報
- 魅力的な写真

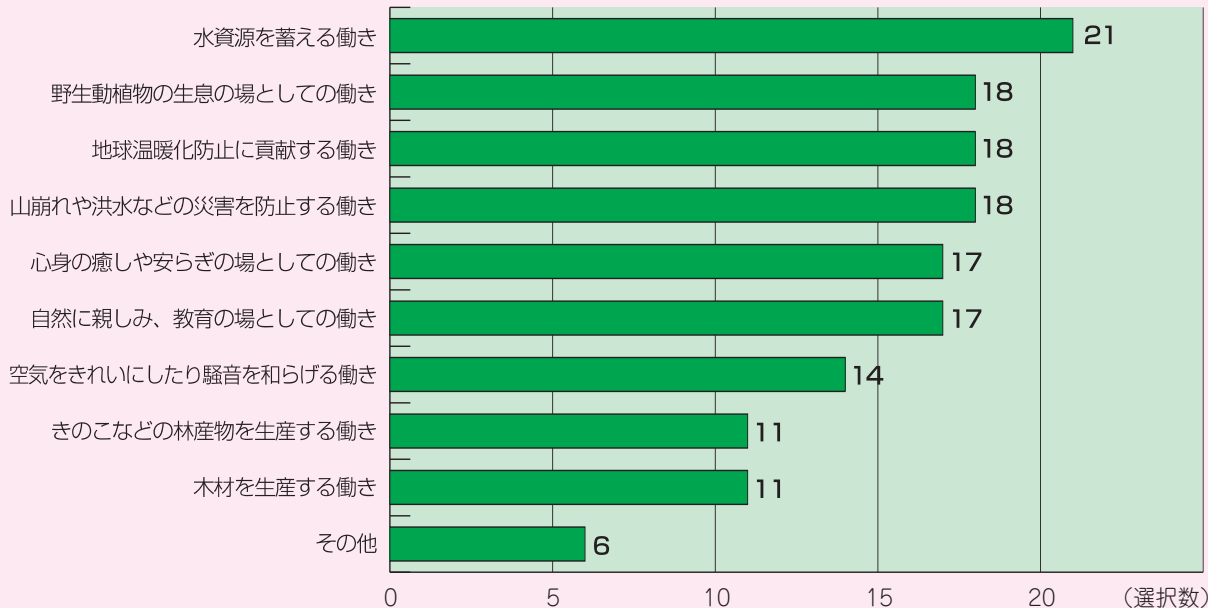
○ 広報活動については、広報紙「グリーン四国」、ホームページについては、約7割のモニターの方が「知らなかった」と答えています。さらに、ホームページについては「メニューが小さく、分かりにくい」「入札、公告が多く読みにくい」といった意見も寄せられました。このため、今後は、グリーン四国の配布窓口の内、一般の人々が多く訪れる場所への配布部数を増やすよう努めるとともに、ホームページの構成については、より分かり易いものとなるよう工夫して参ります。また、いただいたご意見を参考に、関心の高い身近な情報を分かり易く発信できるよう、努めて参ります。

Ⅲ. その他

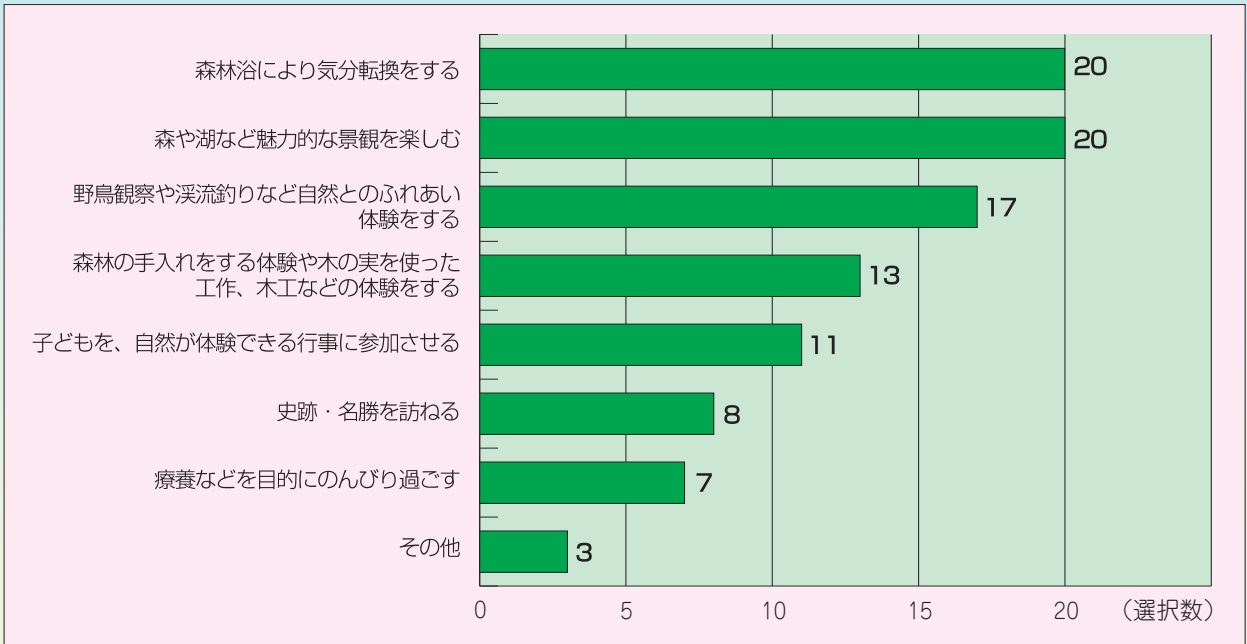
(問1) 今のあなたにとって、国有林はどのような存在ですか。



(問2) あなたは今後、国有林にどのような働きを期待しますか、あてはまるもの全てをあげて下さい(複数選択可)。



(問3) あなたは国有林をどのように利用したいと思いますか。あてはまるものを全てをあげてください(複数選択可)。



○国有林に期待する役割として、一般的に関心の高い「地球温暖化防止に貢献する働き」よりも「水資源を蓄える働き」の方が多く選択されています。国有林をどのように利用したいかということについては、「森林浴により魅力的な景観を楽しむ」「森や湖など魅力的な景観を楽しむ」がトップに選ばれました。四国森林管理局管内の国有林野約18万3千haのうち、国土の保全や水源かん養を重視する「水土保全林」や、貴重な自然環境の保全や自然とのふれあいの場の提供を重視する「森林と人との共生林」が約17万2千haあり、今後とも皆様から求められる機能を発揮できるよう、適切に管理して参ります。

シリーズ 2 ようじで香川森林管理事務所へ

石清尾風景林

所在地
香川県高松市
室山国有林三五林班・石清尾国有林三六林班・御殿国有林三七林班



香川県庁から望む石清尾風景林

石清尾風景林は、高松市中心街の西南部に位置し、市街地に囲まれた都市公園的な森林で、回遊式庭園として有名な栗林公園や、芝生広場・キャンプ場・アスレチックなどが配置された高松市峰山公園と合わせた一帯が、都市の緑地帯として貴重な役割を果たしています。
標高約二〇〇mの山上からは、高松市街や瀬戸内海を眺望することができます。



石船積石塚古墳

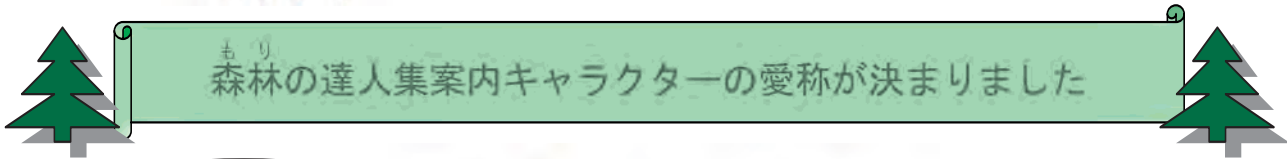
また、一帯には四世紀から七世紀にかけて造られた多くの古墳が見られ、風景林内にも中跡に指定された石船積石塚古墳や猫塚古墳などがあり、これらの古墳群を巡るハイキングコースは、多くの市民に親しまれています。
また、市街地から徒歩で訪れることもできるため、朝夕の散歩コースとされている方も多いようです。

林相は、アカマツ、クロマツを主とする天然林ですが、近年では、マツカイ虫による松枯れも見られるため、防除作業を行い、貴重な森林の保護に努めています。

■お問い合わせ先■
香川森林管理事務所
(〇八七)一八六六―六六二二



達人への案内がきちんとできるように頑張るよ



どうぞよろしく



よろしくね



僕の名前は「**こだま**」です。私の名前は「**このは**」です。

＜愛称名の命名イメージ：森の中で子ども達の声(こだま)が響き渡る様子と、森の中に木の葉がたくさんある優しい感じ＞

◆^{もり}森林の達人集案内キャラクターの愛称の決定について

四国森林管理局では、平成20年度において、多様化する森林環境教育への要請に弾力的かつ機動的に対応していくため、19年度にデータベース化した森林をフィールドとした遊び、活動を得意とする名人達「森林の達人」（高知県版）のノウハウ等の情報発信に取り組むこととしています。

それに向けて、「森林の達人」の方々の得意な分野（体験活動、調査研究活動、物づくり、林業技術）等を四国森林管理局のホームページ上で分かり易く案内し、また、より親しんでいただくために、男の子及び女の子のキャラクターを活用することとし、その愛称について平成20年4月24日～5月16日まで募集したところです。

愛称の審査については、有識者を交えた選定委員会を設置し、上記のとおり愛称が決定しましたのでお知らせします。採用者は次のとおりです。採用者の方には、記念品として木製品を贈呈しました。

【愛称の採用者】

氏名	住所	学校名
まじまみつき 真島美季さん	高知市	高須小学校

今後については、7月中に「森林の達人集」を四国森林管理局のホームページに掲載することとして、案内キャラクターが的確に達人に誘導できるよう取り組みます。

公開講座「ヤナセスギを次代へ」

～森林技術センターの取組～



四国森林管理局森林技術センター主催により、親子で千本山林木遺伝資源保存林を散策し、ヤナセスギの醍醐味を実感してもらい、併せて、次世代へこの壮大な森林を引き継ぐために、森林技術センターで行っているヤナセスギの天然更新（自然に落ちた種子から発生した稚樹を育てる造林法）技術の開発への取組について紹介します。

実施日時 平成20年7月23日（水）7時30分～18時30分頃
四国森林管理局に集合
（受付7時より、中型バス2台に分乗し7時30分出発、駐車場あります。）

場 所 安芸郡馬路村魚梁瀬千本山林木遺伝資源保存林外

主 催 四国森林管理局（高知市丸ノ内1丁目3番30号）

内 容 山の案内人と千本山登山
千本山での森林技術センターの取組紹介（雨天時は馬路村役場魚梁瀬支所）等

募集内容

募集人員 小学生（中高学年）とその保護者（親子等）40名程度

申し込み 平成20年7月15日（火）まで
受付時間は、8時30分～17時15分（土・日を除く）

応募方法 四国森林管理局森林技術センターへ電話で直接申し込んでください。
（住所・参加者氏名・年齢・連絡先をお聞きます。）
先着順で、定員になり次第締め切ります。
※ 多少の雨でも決行予定ですが、激しい場合は四国森林管理局で判断し、中止時は当日6時半までに電話でお知らせいたします。

参加費 傷害保険料として、一人当たり100円を当日朝受付時に徴収します。

当日の服装と持ってくるもの

登山のできる服装（長袖、長ズボン）、運動靴、帽子、リュックサック、お弁当、水筒、敷物、タオル、雨具（簡易なもの）、薬、健康保険証のコピー、その他必要なもの。

- お問い合わせ先
四国森林管理局森林技術センター
〒780-8528 高知市丸ノ内1-3-30
TEL 088(821)2250 （担当者 田ノ上・高慶敷）

